

# 新年会記念俳句会優秀作品

平成二十一年 一月二十六日

## 「落葉掃く」

天

さびしげな 梢を見上げ 落葉掃く

佐藤 栄祐

地

おはようの 言葉かわして 落葉掃く

佐々木常行

人

参道は いつも暗がり 落葉掃く

鈴木 圀彦

入選

玄関へ 風に卷かれし 落葉掃く

吉井 正孝

嵐の朝 まず道を見て 落葉掃く

葦澤喜一郎

朝早く ねむけまなこで 落葉掃く

葦澤喜一郎

落葉掃く 嵐の夜の 夢を見る

葦澤喜一郎

感謝して 錦飾った 落葉掃く

佐藤 秀夫

けさもまた 悩みかかえて 落葉掃く

田中 悌司

散るものに 老いを感じて 落葉掃く

佐藤 秀夫

落葉掃く 良寛の道 風小風

馬場 信彦

落葉掃く 箒の先に 影法師

熊倉 高志

漢学の 里に積りし 落葉掃く

長谷川晴生

風しにも 空中(そら) 舞うとも 落葉掃く

鈴木 武

やき芋の 焚火は燃えて 落葉掃く

佐藤 栄祐

穏やかな 朝日背に受け 落葉掃く

星野 健司

いくたびも 落葉掃き掃く 焚くばかり

住谷 哲雄

痛々し 落葉掃く手の 荒れてけり

丸山 征夫

ひらひらと 舞う初雪に 落葉掃く

嘉瀬 修

落葉掃く 陽射しが尾根を かけ降りる

大湫 秀夫

落葉掃き 春の息吹を 見つけけり

渡邊 久晃

落葉掃き 寄せ集めて焚く 日和たり

渡邊 久晃

朝日さす 場所は変わりし 落葉掃く

鈴木 圀彦

「山眠る」

天

純白な 布団をかけて 山眠る

佐藤 栄祐

地

駅伝の 風駆けぬけて 山眠る

(長橋)

人

真白き野に 友の眠るや 山眠り

(長橋)

入選

深々と 山眠る漆黒の闇

大溪 秀夫

月ありて ほのかに白く 山眠る

田中 悌司

しんしんと 音なく降りて 山眠る

嘉瀬 修

ゆつたりと 白くまるまり 山眠る

丸山 征夫

陽を受けて 真つ白々に 山眠る

住谷 哲雄

山眠る 下田の奥に 雪つもり

佐々木 常行

春待ちて 白を纏いし 山眠る

星野 健司

大空の 音にも動ぜず 山眠る

鈴木 武

五十嵐に 白鳥舞い降り 山眠る

長谷川 晴生

標(かんじき)の 深くぬかりし 山眠る

熊倉 高志

良寛の 国上の山の 深眠り

馬場 信彦

雪かぶり 雲の切れ間に 山眠る

佐藤 秀夫

人あらず 春待つ如く 山眠る

吉井 正孝

「鱈」

天

センターを 終えし子を待つ 鱈の鍋

(長橋)

地

鱈鍋も 煮つけも頭は 主が食べ

鈴木 武

人

ぐつぐつと 家族で囲む 鱈の鍋

大溪 秀夫

入選

おせち重の 鱈の煮凍りに 母偲ぶ

鱈とうふ 二合の酒を のみあつて

鱈鍋や 幸い囲む 家族なり

古里を 離れて恋し 鱈の汁

幸せに 鱈腹食べる 鱈の鍋

棒鱈を 味よく仕立る 料理人

鱈鍋に 笑顔集り 美味(うま) さ増し

鱈鍋を 囲む我家に 咲く笑顔

夕ご飯 鱈を食べ食べ うま酒を

鱈腹に 食べて呑みけり 鱈と汁

渡邊久晃

吉井正孝

馬場信彦

田中悌司

熊倉高志

長谷川晴生

星野健司

佐々木常行

住谷哲雄

丸山征夫

選者吟

武藤昭三先生

あけ

人知れず 暁に御僧 落葉掃く

膝を打つ 孫と将棋や 山眠る

こもち鱈 さくやきらめく 砂防林

